



+R 未来を生みだす人になる。

立命館大学

立命化友会ニュース

= 第2号 =

発行日:2013年11月1日

編集:立命化友会事務局

編集責任者:金川義孝

〒525-8577

滋賀県草津市野路東1-1-1

立命館大学生命科学部・

薬学部事務室内

TEL.077-561-2658

FAX.077-561-2659

e-mail:kayukai@st.ritsumeai.ac.jp

立命化友会の皆様へ

生命科学部長 今中忠行



ことのほか暑い夏も終わり、健やかに活躍されていること存じます。今回の会報では、生命科学部が発展するための将来展望についてお話ししたいと思います。

二〇〇九年度から二〇一二年度にかけて文部科学省の指定を受けて戦略的連携大学院構想「理工医薬融合型ライフサイエンス高度専門教育システムの創成」が谷口前学部長の指導の下に進められ、最終的に評価委員会から極めて高い評価を頂きました。

その流れを受けて二〇一三年度から「生命科学を基盤とする国際企業人養成プログラム」をスタートすることが大学で認められました。これは五年制博士課程一貫教育を行うもので、生命科学(医科

大学等との連携を含む)に関する二年間の少人数(五名)制の徹底教育とそれに続いて徹底した英語教育、アントレプレナー教育を与え、国内企業や海外大学・研究所への長期インターンシップを行うなど多様なプログラムを用意しています。またこれらの企画に必要な費用や授業料を無料にするための仕掛けも検討中であります。彼らが立命館大学のエリートとして将来社会で活躍してくれるものと期待しています。

また生命科学部では、グローバル人材の養成を強く意識し、学部および大学院教育において「発信型英語教育」を積極導入してきました。この英語教育は生命科学部設立以降、TOEICの平均点の大幅向上、学生・院生の確実な英語運用能力向上に寄与してきました。さらに二〇一三年九月からインドネシアとタイから修士課程三名、博士課程二名の計五名を毎年国費留学生として受け入れるプログラムが文部科学省の全面的支援でスタートしました。さらに二〇一三年度から生命科学部・薬

学部からアメリカのカリフォルニア大学デービス校へ短期(一か月)留学させるプログラムも認められ、十二名を募集(奨学金あり)したところ、数十名の応募がありました。学生の積極的な気持ちを支援するため英語担当の先生の支援もあつて彼らを派遣することにしていきます。これらはいわゆるグローバル化を進めるにあたつて大変意義ある流れであると考えています。

これらの話とは別に、生命科学部では既存学科の拡充(応用化学科定員二十名増、生命医科学科定員十名増)と定員六十名の新学科(生命資源学科、仮称)を設置する構想が進んでおり、学内では設置準備委員会が発足しています。びわこ・くさつキャンパスでは、学部をできるだけ一か所に統一するゾーニング計画が進められており、理工新棟の一期計画は決定していますが、もし増員分が認められれば二期工事が進められることになるでしょう。

話は変わりますが、来年は理工系学部が「びわこ・くさつキャンパス」に移転してから二十年目に当たります。それで二十周年記念事業として理工学部を中心として寄付を集めるための企画が立てられています。生命科学部にも話が持ちかけられていますので協力するつもりです。応用化学科と化学

生物工学科(現在の生物工学科)はかつて理工学部所属していましたので、卒業生にも協力をお願いしたいと思っています。その内容は、二万円以上の寄付者には「ひらがな」の名前を刻印したレンガを正門付近に設置すること、このようです。その時に寄付先を「生命科学部」と指定して頂きたいのです。さもなくば機械的に理工学部への寄付となつてしまいます。かつて理工学部として卒業された方々には思い出も多いと思います。その発展系である生命科学部をご指定頂き、後輩への支援に役立たせて頂きたいと考えています。

最後に簡単なご報告を致します。生命科学部生物工学科久保幹教授が白雪酒造と連携・指導した必勝の酒である「勝馬米」が好評を博しています。日本中央競馬会栗東トレーニングセンターでは競走馬が調教されていますが、そのエサは高度に管理されています。この馬有機堆肥を用いて栽培された勝馬米を用いた純米大吟醸がこのお酒であり「R」のマークが印されています。校友会などの乾杯に利用して頂ければ幸いです。

以上、学部の現状説明と、世俗的なお願いになってしまいましたが、立命化友会の皆様のご健勝とご発展を祈念して終わりにさせていただきます。

薬学部近況報告

薬学部長 今村 信孝



二〇〇八年にそれまでの応用化学科、化学生物工学科、生命情報学科を基に、薬学部と生命科学部が創設されました。薬学部も旧化学科を源流とする一連の流れの中で生まれた学部ですので、卒業生は化友会の一員に加わるようになっていきます。薬学は化学のみならず、生物学を基盤学問領域とし、クスリという化学物質をヒトという生物の健康のための医療行為に役立てようとする実学です。複合領域で学ぶべき事が多いこと、また近代の医療の高度化も相俟って、学生には多くの知識・技術の修得を求められる分野です。

我国の薬学教育は、二〇〇六年から四年制と六年制の二つの教育システムに分けられています。意外に思われるかも知れませんが、四年制が研究者養成、六年制は医療従事者、即ち薬剤師養成が主な教育目

的とされています。本学六年制薬学部は国内最後発の薬学部で、定員割れが多い後発薬学部・薬科大の中で、異例なことに多くの受験生を集めています。今年発表された予備校の偏差値では、私立五十七薬系大学中、東京理科大と肩を並べ、慶応に次ぐ全国第二位となり、優秀な学生層が入学してきています。まだ卒業生を輩出していない段階で、このような高評価を得られるのは、ひとえに立命館というブランドの力であり、諸先輩方の御努力の賜物と感謝する次第です。また、開設以来、施設の増設、実務系教員の補充、教員のFD活動などの六年制薬学教育力の強化を図ってきたことも、受験生の高評価の一因になっていると考えております。

本学にとって初の医療系で国家試験合格を目標とする六年制の学部、また薬学教育経験者が教員に少ない上に、六年制新制度自体に不確定な要素もあつた等々、多くの不安材料を抱えたままの薬学部の船出でありましたが、完成間近までどうか大きな支障なく教育を行ってきました。自動車免許での仮免許試験に相当する学力試験と実技試験を、年

末に四回生対象に学内で実施し、ほぼ一〇〇%の合格率を達成しております。五回生での合計五ヶ月に及ぶ病院、薬局実務実習でも、現場の薬剤師さん達から本学学生への高い評価を得ており、六回生の就職活動もすこぶる順調です。六回生は八月下旬に卒論発表を行い、国家試験へ向けた猛勉強中です。薬学部設置完了までに残る関門は、来春三月初めに行われる一期生の薬剤師国家試験で、本学薬学部の教育力への客観的な評価が下ることになります。結果は公開され、その後の学部への評価、受験者動向、存学生の意識、その他諸々に多大な影響を与えることになり、教職員一同、六回生への指導を強めるとともに、祈るような気持ちで日々を送っています。来年以降、毎春、正確には三月の一ヶ月間、薬学部は異様な緊張感に包まれることになります。

薬剤師国家試験の結果は、三月末に新聞などを通じて発表されます。皆様方の後輩、化友会会員としては少し変わり種の「薬剤師」という肩書きを持つ後輩が何人生まれたか、母校に誕生した薬学部が立命館の名に恥じない力を示せたか、少しご興味を抱かれてお見守り頂ければ幸いです。また、晴れて「薬剤師」になれた卒業生、予定ではゼロですが不幸にしてなれなかった場合も、化友会会員として暖かく迎え入れて頂けますようお願いいたします。

会員だより

ポテンシヨスタットと電極と私

山本 貴代 (平成十九年卒)

私は四回生と大学院の三年間、電気分析化学研究室の白石晴樹教授にお世話になりました。現在は、公設試験研究機関で表面処理関連の仕事に携わっており、今年で五年目になります。表面処理と言っても、主に電気めっき・電鍍(めっきの厚付けを行い、製品を作る方法)に関する研究開発を行っています。めっき製品は、皆様の身の周りでも多く利用されており、例えば、ネックレス等のアクセサリ、ネジや水洗金具、パソコンあるいはスマートフォンの中の微細電気配線などがあります。私の所属する研究室では、環境負荷の少ない新規めっき液の開発や新規高機能を目指すめっき・電鍍技術の開発を目指しています。今でも白石研究室のお家芸、「ポテンシヨスタットと電極」と格闘しております。学生時代と似たような日々を過ごしています。

学生時代の私といえば、実に出来の悪い不肖の学生であつたため、私の在学中は白石先生の白髪化が進んだとも言われています(白石先生は偉大な研究者であられるにも関わらず、何の因果関係もお示し下らないのは残念でなりません)。白石先生は、昨年度にご定年退職されたため、五月に御定年退職記念祝賀会が行われました。写真はその祝賀会での様子です。先生のお人柄ゆえ、白石先生の前任でおられる高橋先生の研究室の卒業生、ならびに白石研究室の卒業生と、多くの方々が集まり楽しく過ごさせて頂きました。在学中ではお目にかかれなかった諸先輩方とも、たくさんのお話ができました。分析化学関連の会社等にお勤めの方が多く、二次会では分析機器・器具の取り扱いについて熱い議論が交わされ、白石研究室ならではと面白く感じました。

今後は、立命化友会で三十周年記念会が開催されるそうですので、ぜひとも出席させて頂き、高橋研究室、白石研究室以外の新たな繋がりが出来たらと考えております。



観衆を魅了する技を求めて

立命館大学応援団
チアリーダー部

コーチ 荒川 香那恵



着くことができました。
学生達が大きな怪我や試練を乗り越えて進化し続け、その活動を支えてくださった関係者の方々の思いが一つになった瞬間でした。



二〇一二年、創部三十六年目に突入した立命館大学応援団チアリーダー部は、本学園の学友会中央事業団体として、学内外様々な舞台で活動させて頂いています。

二〇〇一年（創部二十六年目）より『応援と競技の両立』を掲げ競技会にも出場し始めて十年目の二〇一

年、大学部門全国三位（総出場チーム七十一チーム）まで辿り



競技チアへの挑戦は、学生達自身が負けることの悔しさ、勝つことの喜びを知り、チームのなかで何ができるかを体験する重要な機会です。そして、応援団は、学生や学園関係者が何かに挑戦していることを応援します。

私は、応援団チアリーダー部のコーチとして、学生達が人を心の底から応援し、いつか『日本一の学生の活動を日本一のチアリーダーが応援する』そんな瞬間に出会えたらと思いい指導を続けています。歴史ある強豪校や新たなライバル校が現れる中、私達は、一度辿り着いた場所の維持と、頂点へ向けてのさらなる進化を目標に、目標の場所に辿り着くためにどうすれば良いのかを考え、時にはぶつかり合い、答えを探し求めています。

今回の講演では、ここまでの歴史を振り返り、学生とのコミュニケーションを中心に、応援団チアリーダー部の活躍を皆様にご紹介させて頂きました。

会場ではたくさんのご質問やご意見を頂き、大変勉強になりました。

また、一九四九年理工学部設置の初代先輩方から歴史を歩んで来られた沢山の先輩方にお会いする事ができ、貴重な機会を与えて下さった事に感謝申し上げます。

応援団チアリーダー部は更なる発展を目指し、今後も歩み続けて行きます。

競技会・応援・依頼・学内行事、様々な場所で校友の皆様にお会いできる事を、部員一同楽しみにしていますので、是非足を御運び頂ければと思います。

応援歌

作詞 白井道造
作曲 高橋 半

一、空はさながら青春の

胸の雄図の象なり

溢るる力示すべく

えんじの旗をなびかせて

堂々勝を争わん

グレーター立命

グレーター立命

四、心と身を鍛え上げ

清き健児の火を吐きぬ

秋に放たん大ゲーム

「R」の手旗うちふるい

雄たけびおくる応援団

グレーター立命

グレーター立命



定年退職にあたって

白石 晴 樹

(昭和四十七年卒)



私は、一九八〇年三月に理工学部化学科助手として任用されまして、三十三年間立命館大学の教員として務めさせていただきました。その前に、私は大学紛争真只中の一九六八年立命館大学に入学し、一九八〇年三月に大学院を修了(その間に大学を離れている期間少々)していますので、私の人生の三分の二を立命館大学で過ごさせていただいたことになります。長いと感じたことはなかったのですが、今年三月に定年退職者の集いがあった時、ご定年になられる同世代の教職員の皆様のお顔を拝見したときに立命での時間の長さを実感しました。

振り返ってみると、記憶に残っている立命館の思い出は、時間の

空間が歪んでしまっていますが断片的にとっても鮮明に残っているような気がします。私の入学式は、かつての広小路キャンパス研心館四階の大講義室(一九六九年の一月には、全共闘と大学の団体交渉があった室です。)でしたが、末川総長のお話は全く記憶に残っていないのに、その時の情景は今でも鮮明に残っています。その後の記憶も今年の三月の時点に至るまで、ある瞬間の部分的な記憶は鮮明に残っているのですが、それぞれの間の時間空間が飛んでいるために、入学式がつい先日だったように錯覚してしまっています。そのために、四十年余りの記憶を辿っても直ぐに終わってしまうような気がします。実は、都合の悪いことを全て記憶から消し去って良いことだけを残しているのかもしれない。勿論、創設三十周年を迎える立命化友会の変遷は、私の記憶の中のかなりの部分を占めています。

助手になって一年ほどたった時期に各研究室の同窓会を統合して化学科同窓会を結成する計画がも

ち上がり、二年ほどの準備期間を経て発会に至りました。当時の化学科の先生方や卒業生の皆様のご尽力で開催された衣笠キャンパスでの発会式や、そのときの第一回総会で故石原様が素晴らしい議長を務められた様子もよく記憶しております。それから十年が過ぎ、BKC移転と共に「化学科同窓会」は新設の生物工学科を加えて「応化会」として再スタートすることになりました。そして、六年前に生命科学部・薬学部が設置されて、現在の「立命化友会」が発足し、学生数が化学科同窓会当時の四倍以上になり会員数も急激に増加、大きな組織へと発展しています。(その間の思い出は沢山あります。とても簡単にご紹介できません。)三十三年前には、理工学部化学科が今日のような生命科学部・薬学部へ発展するとは私には到底想像できませんでした。恐らく誰もが想像していなかった変貌ぶりだと思えます。

二〇二〇年度までには更に改革が進み、立命館が社会のニーズに応える大学へと発展すると期待しておりますが、専門学校当時から引き継がれている立命館スピリッツだけは今後も受け継いでもらいたいと思います。

最後になりましたが、本当に長い間ありがとうございました。

白石晴樹先生の

御定年退職にあたって

応用化学科教授

澤 村 精 治

(昭和四十九年卒)

白石晴樹先生は、二〇一三年三月末をもって定年により、ご退職になりました。白石先生お疲れ様でした。

メンバーであることは皆さんご存じの通りです。白石先生なしには立命化友会は成り立ちません。

成り立たないと言え、もう一つ、衣笠キャンパス時代の化学科

ではなぜか「パソコンがすべてN E C製でソフトは「太郎」だったのを思い出します。なぜか? 白石先生がN E C製で「太郎」を使っていたのです。当時化学科ではパソコンについて白石先生以外誰もよく知らないで、パソコンのことはすべて白石先生へ、ということでした。白石先生が右向けばみんな右で、白石先生が化学科でパソコンを普及されたといっても過言ではありません。白石先生ありがとうございました。おかげで小生は今もって「一太郎」から抜け出せません。

今春から白石先生は特任教授として本学で活躍されています。白石先生、これからもよろしくお願い申し上げます。

学科同窓会の設立当初からの重要

ボウリング場経営四十一年

吉 崎 敬 二（昭和四十年卒）

今年 は 当 社 が 昭 和 四 十 七 年 五 月 に 浜 松 市 内 有 玉 南 町 に ボ ウ リ ン グ 場 を 開 場 し て 四 十 一 年 に な り ま し た 。 昭 和 四 十 年 代 、 ボ ウ

業 績 は 微 減 状 態 で 、 数 年 前 よ り 全 国 チ ェ ー ン の 企 業 が 二 箇 所 開 場 し ま し た が 、 昨 年 は 二 箇 所 の 既 存 セ ン タ ー が 廃 業 し ま し た 。

リ ン グ は 新 鮮 な レ ジ ャ ー と し て 爆 発 的 な 人 気 に な り 、 浜 松 市 内 に 二 十 箇 所 以 上 も 建 設 さ れ ま し た 。 そ の 後 は 過 当 競 争 に よ り 、 壊 滅 的 な 不 況 を 経 験 し 、 浮 沈 の 激 し い 事 業 の 代 名 詞 と し て よ く 取 り 上 げ ら れ ま し た 。 殆 ど の ボ ウ

ウ リ ン グ 事 業 の 経 営 環 境 は 大 変 厳 し く な っ て お り ま す 。 従 来 の 店 舗 を 開 け て 、 お 客 を 待 っ て い る 経 営 で は 存 続 で き な く な り ま し た 。 現 在 で は 当 社 の 売 り 上 げ の 五 〇 % 以 上 が 固 定 客 （ メ ン バ ー ） に よ る も の で ほ と ん ど が シ ニ ア 層 の 健 康 目 的 で の 来 場 で す 。 い ま こ そ ピ ー タ ー ・ ド ラ ッ カ ー の 言 葉 「 企 業 の 使 命 は 顧 客 の 創 造 で あ る 」 の 実 行 し か 生 き 残 る 道 は あ り ま せ ン 。 当 社 は 現 在 も 毎 月 、



号 店 、 平 成 六 年 に 掛 川 市 に 三 号 店 を 開 場 し ま し た 。 平 成 十 年 頃 か ら 日 本 経 済 の 停 滞 と と も に 現 在 ま で 十 数 年

ボ ー ラ ー の 育 成 の た め L T B と い う ア メ リ カ で 開 発 さ れ た プ ロ グ ラ ム で 毎 回 二 十 五 十 名 の シ ニ ア の た め の ボ ウ リ ン グ ス ク ー ル を 開 催 し て い ま す 。 今 後 も こ れ を 当 社 の 最 大 戦 略 と し て い き ま す 。 最 近 浜 松 市 に も 開 業 し た 全 国 チ ェ ー ン の セ ン タ ー が 毎 日 朝 ま で 営 業 し 、 健 全 な レ ク レ ー シ ョ ン で あ る べ き ボ ウ リ ン グ が こ れ で 良 い の か と 疑 問 に 思 い ま す 。 私 は 長 年 ボ ウ リ ン グ の 健 全 な 発 展 を 旗 印 に 努 力 し て き ま し た の で 残 念 で な り ま せ ン 。 フ ァ ミ リ ー ボ

ウ リ ン グ 、 ス ポ ー ツ ボ ウ リ ン グ を 発 展 さ せ 、 そ の 際 に も 今 後 も 地 域 社 会 、 国 民 か ら も 健 康 産 業 と し て 支 持 さ れ る よ う 努 力 い た し ま す 。

私 事 に 成 り ま す が 小 生 両 親 が カ ト リ ッ ク で し た の で 少 年 期 に 教 会 で 音 楽 を 聞 か さ れ 音 楽 が 趣 味 に な り ま し た 。 モ ー ツ ア ル ト 、

ベ ー ト ー ベ ン 、 カ ラ ヤ ン 等 は 全 曲 の C D を 購 入 し 会 社 で 聞 い て い ま す 。 高 校 時 代 に バ イ オ リ ン を か じ り 今 は 時 間 の 余 裕 が 出 来 ま し た の で 朝 一 時 間 、 夜 一 時 間 好 き な ヘ ン デ ル 、 ビ バ ル デ イ 、 モ ー ツ ア ル ト 、 ベ ー ト ー

ベ ン な ど を 気 楽 に 弾 い て い ま す 。 名 曲 を 聞 く の み な ら ず 自 ら 弾 く 喜 び は 何 に も 代 え が た い で す 。 小 二 の 孫 を 週 一 度 先 生 の 所 へ 連 れ て 行 く の が 小 生 の 仕

事 で す が 、 こ の 孫 は バ イ オ リ ン を 全 く 練 習 し ま せ ン の で 音 感 と リ ズ ム の 勉 強 を 主 に し て い



ま す 。 私 の 楽 器 は 小 生 と ほ ぼ 同 年 齢 の 仏 製 バ イ オ リ ン を 始 め 世 界 各 国 の 楽 器 七 丁 持 っ て い て 、 取 り 換 え 、 引 き 換 え 弾 い て 楽 し ん で い ま す 。 今 年 七 月 五 日 か ら ラ イ オ ン ズ ク ラ

ブ の 国 際 大 会 が ド イ ツ の ハ ン プ ル ブ グ で あ り 、

そ の 際 に も 独 製 の バ イ オ リ ン を 購 入 し て き ま し た 。

私 は 昭 和 三 十 六 年 に 入 学 し 、 本 大 学 経 営 で 大 活 躍 を さ

れ た 谷 口 吉 弘 先 生 と 同 期 で し た 。 横 山 一 英 、 岩 崎 弘 通 の 両 先 生 に 卒 業 研 究 で お 世 話 に 成 り ま し た 。 ま た 入 学 時 の 指 導 教 官 は 健 在 な 鈴 木 啓 三 先 生 で 、 難 解 な 物 理 化 学 の 反 応 速 度 の 問 題 を 今 も 思 い 出 し ま す 。 お 世 話 に 成 っ た 先 生 方 全 て に 御 礼 を 申 し 上 げ ま す 。

小 生 日 本 ボ ウ リ ン グ 場 協 会 、 浜 松 東 法 人 会 、 浜 松 商 工 会 議 所 、 二 つ の 社 会 福 祉 法 人 等 の 役 職 を 務 め て お り 、 昨 年 秋 に は 古 希 と 同 時 に 名 古 屋 国 税 局 長 の 納 税 表 彰 も 頂 き ま し た 。 現 在 立 命 館 科 学 技 術 協 会 の 末 席 に 在 籍 し 、 昨 年 ま で は 本 学 静 岡 県 校 友 浜 松 会 の 会 長 役 を 仰 せ っ か り 、 毎 年 新 年 会 に は 本 学 の 長 田 理 事 長 、 本 郷 副 総 長 、 は じ め 谷 口 、 安 斉 、 加 地 他 の 諸 先 生 方 そ し て 校 友 課 の 皆 様 を お 招 き し 音 楽 会 、 講 演 会 等 を 開 催 し て き ま し た 。 今 後 も 大 学 の 発 展 の た め 微 力 を 尽 く し て ま い り ま す 。 皆 様 の ご 支 援 を お 願 い 致 し ま す 。



写真はフランクフルト空港で一杯です。

故岩崎先生を偲ぶ

田渕 光春
(平成元年卒)



岩崎先生とは、四回生の卒業研究と修士課程において指導教官としてお世話になりました。当時の研究テーマ

は、窒化チタンウイスカー（ひげ状結晶）の合成の研究で、今まで研究室で取り組んだことのない新しいテーマとして頂きました。合成できる保証はなかったものの、金色のウイスカーができるということでした。先生は朝早くから研究室にこもられ、自ら先頭に立ってにこやかなお顔で物作りをされているのが印象に残っています。幸いフッ化チタンカリウムを出発物質として窒素気流中熱処理を行うと、黒鉛ボート上に目的の金色のウイスカーが生成することがわかり、そのときは非常にうれしかった。先生にも喜んで頂けたと思っている。このときの経験がその後、研究の道に進むきっかけになり、物作り研究者となることが自分に最もふさわしいものであると確信できたと思っています。

このような考えに至ったのはひとえに物作りに対する先生の真摯な姿勢と、研究室での丁寧なご指導のおかげであり、ご指導に感謝するとともに、先生のご冥福をお祈りいたします。

会員だより

振り返れば幸運に恵まれて

木村 嘉 勝 (昭和四十三年卒)



卒業研究は、有機化学研究室（渡辺明教授、中村尚武助手）で、当時は自由な雰囲気の中で深夜まで仲良く楽しく地道な実験等

勇気をもって仕事を追っていました。産業安全衛生分野で多くの関係法令改正、政策の企画等を担当しましたが、専門の化学関係で担当した政策の例としては、化学物質等安全データシート（SDS）の譲渡時での交付の義務づけ、日本バイオアッセイ研究センターの設立、職場の喫煙対策指針の公表等があります。平成十三年に退職して関係団体の役員になりましたが、はからずも「秋の園遊会」にご招待を賜る幸運を区切りに郷里（滋賀県）に帰り、京都で勤務の後にフリーとなり、過去の経験等を生かした仕事、地域社会の役員等をして平和な日々を送っています。

卒業研究は、有機化学研究室（渡辺明教授、中村尚武助手）で、当時は自由な雰囲気の中で深夜まで仲良く楽しく地道な実験等

今年の国家公務員総合職に立命館大学出身者は二十人合格していますが、例年、各省庁の採用実績は厳しいようです。選考試験を担当してきた経験では「この省庁で国政に尽くしたい」という「誰にも負けない強い熱意と一念」を心に決めて臨むことが大切です。最後に、誰しも迎える退職は「桜のように綺麗に散る」よりも「バラのように茎に残って徐々に色あせつつ生き延びる」のが心身の健康にも良いようです。

(温泉研究会幹事)

企画運営委員会報告

企画運営委員会

委員長 伴 野 清
(昭和四十二年卒)

日頃は、立命化友会会員の皆様方の交流と親睦を図るための各種企画の運営にご協力をいただき、有難うございます。

さて、今年度も幹事の方々にお世話いただき「ゴルフ・懇親会」、「ハイキング」および「温泉研究会」の活動が繰り広げられました。なお、「釣り天狗クラブ」のイベントは平成二十五年九月二十二日（日）に開催される運びとなっております。

また、本年度は「特別企画セミナー」と題し、本学応援団チアリーダー部コーチに講演をお願いすると共に、部員の方々をお招きして、即席ステージでの見事なパフォーマンスを披露していただきました。

今年は立命化友会として活動して、早や一年を経過しました。今後、会員数も益々増えていきますので、皆様方のご協力をいただながら、より一層充実した企画運営を続けてまいります。

それぞれの開催案内は、事務局からお送りしておりますので、参加ご希望の方は、お気軽に事務局までご一報下さいますようお願いいたします。

「企画運営委員会の開催」

平成二十五年二月二十四日（日）

立命館朱雀キャンパスにおいてこれまでの総括と今後の活動について打ち合わせを行い、テーマに柔軟性をもたせた特別企画セミナーとしての存続を確認しました。

特別企画セミナーの開催

平成二十五年二月二十四日（日）

本年度は少し趣向を変えて「観衆を魅了する技を求めて」と題して、応援団チアリーダー部コーチの荒川香那恵氏の講演並びに選手有志の皆様によるパフォーマンスの披露をお願いしました。

選手の皆様によるパフォーマンスは、タイトル通りの「魅了する技」をご披露いただき、新たに感動と元気をもらったような気になりました。最後に「グレート・立命」をチアリーダー指揮のもと全員で意気高く合唱して、エンディングとなりました。

応援団チアリーダー部の皆様、有難うございました。（詳細は本号三ページ）。

第二十九回 ゴルフ・懇親会

平成二十四年十月二十五日（木）

幹事の三上正勝様・西村定様にお世話いただき、好天に恵まれた秋空の中、日野ゴルフクラブにおいて開催されました。当日は十三名の方にご参加いただき、親交を暖めることができました。競技方法は新ペリア方式で行い、河村善雄様が優勝されました。おめでとうございます。

第二十五回 ハイキング

平成二十四年十一月二十五日（日）

木全豊和様に幹事をお願いし、「山の辺の道Ⅱ」ハイキングが絶好の日和に恵まれ開催されました。

参加者九名、JR奈良・JR柳本・環濠集落・夜都伎神社・内山永久寺跡・石上神宮・標本・奈良の十二kmのコースを楽しく散策した後、大阪王将にて打ち上げ懇親会を行い大いに盛り上がりました。



第25回ハイキング

第三十回 ゴルフ・懇親会

平成二十五年三月二十八日（木）

三上正勝様・西村定様にお世話いただき、しだれ桜が満開の宇治カントリークラブで開催され、十四名の方に参加いただきました。前回に引き続き河村善雄様が優勝されました。おめでとうございます。桜満開の中で和気あいあいとラウンドできましたことをご報告いたします。

第二十六回 ハイキング

平成二十五年四月二十一日（日）

木全豊和様に幹事をお願いし、参加者八名が、JR奈良・新薬師寺・白豪寺・円照寺・正暦寺・弘仁寺・森本・JR奈良の十五kmのハイキングに挑戦しました。峠越えなど



第26回ハイキング



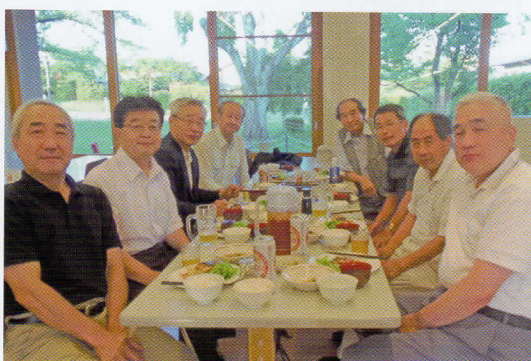
第30回ゴルフ懇親会

第五回温泉研究会幹事会

平成二十五年七月八日（月）

一部きついところがあつたものの、八重桜や咲き始めの藤などを眺め談笑しながら楽しく歩くことができました。疲れは懇親会で吹き飛んだようです。

温泉研究会副会長の奥野年秀様の幹事により、京都市立宇多野ユースホテルにおいて幹事会・懇親会が開催されました。病氣療養から復帰された会長の石井猛様の温泉に関する研究成果の発表を始め、本年度の総会を十一月に岡山県内の温泉地にて開催することなどが決定されました。ゆっくり温泉につきり、おいしいお料理を...皆様のご参加をお待ちしております。



温泉幹事会

新任の先生から一言

田中 秀和先生
たなか ひでかず



本年四月より生命科学部生命医科学科教授として着任いたしました。専門分野は神経化学、薬理学です。神経回路の成り立ちに細胞接着分子が関与するメカニズムと、環境からの刺激で神経回路が構造を変え、脳の機能をチューニングする過程に興味をもって仕事をしています。これからもご指導・ご鞭撻の程なにとぞよろしくお願い申し上げます。

略歴 一九八九年大阪大学医学部卒、一九九五年大阪大学大学院医学系研究科卒、同年大阪大学医学部助手、二〇一一年大阪大学医学系研究科准教授、二〇一三年現職。

桂 敏也先生
かつら としや



本年四月より薬学部教授として着任いたしました。専門分野は医療薬理学、薬物動態学で、薬物の体内動態、薬効・副作用発現における薬物トランスポーターの役割を中心に研究を行っています。前任地の臨床現場で得た経験と知識を活かして本学での教育・研究に貢献したいと考えております。皆様のご指導、ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。

略歴 一九九三年 京都大学大学院薬学研究科博士後期課程修了、博士（薬学）。同年米国マサチューセッツ総合病院博士研究員。一九九六年 京都大学医学部附属病院薬剤部助手。二〇〇三年 同講師。二〇〇四年 同助教授（准教授）・副薬剤部長。二〇一三年四月 本学着任。

川村 晃久先生
かわむら てるひさ

本年四月より生命科学部生命医科学科に准教授として着任いたしました。専門は、

幹細胞生物学および再生医学で、iPS細胞形成（初期化）や、心筋細胞分化に関わる分子機構の解明を目指し研究しております。生命科学部の発展に貢献できますよう、教育・研究に一層精進を致す所存です。皆様のご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



略歴 一九九七年 京都大学医学部医学科卒業。二〇〇四年 京都大学大学院医学研究科循環病態学修了博士（医学）。二〇〇七年 日本学術振興会海外特別研究員（ソーク研究所）。二〇〇九年 京都大学生命科学系キャリアパス形成ユニット特定助教（主任研究者）。二〇一三年 本学着任。

竹田 篤史先生
たけだ あつし

本年四月より生物工学科の准教授として着任いたしました。植物の病気、特にウイルス病を専門にしています。分子生物学的手法を利用してウイルス病に強い植物を作

出することを目指しています。どうぞよろしくお願い致します。



略歴 一九九九年 京都大学農学部生物生産科学科卒業。二〇〇四年 京都大学大学院農学研究科応用生物科学専攻（植物病理学研究室）修了、博士（農学）。二〇〇五年日本学術振興会特別研究員（東京大学・アメリカ合衆国オレゴン州立大学）。二〇〇八年 日本学術振興会海外特別研究員（アメリカ合衆国オレゴン州立大学）。二〇〇九年 東洋大学教養学部生命認知科学科助教。二〇一三年 立命館大学生命科学部生物工学科准教授。

浅井 智広先生
あさい ちひろ

“If I have been able to see further, it was only because I stood on the shoulders of giants.” - Isaac Newton
ニュートン先生を乗せられる肩をもった巨人になれるようにがんばりたいと思います。



略歴 二〇〇五年に神戸大学理学部生物学を卒業、二〇一〇年に大阪大学大学院理学研究科生物科学専攻博士課程を修了し、博士（理学、大阪大学）を取得。二〇一一年四月から日本学術振興会特別研究員PDとして名古屋大学大学院理学研究科で研究し、二〇一三年四月から立命館大学生命科学部生命情報学科助教。

金子 光佑 先生
かねこ こうすけ



本年四月より生命科学部応用化学学科助教として着任いたしました。現在は液晶を用いた新規機能性材料の開発を目指し、研究に取り組んでおります。

多くの人との出会いを大事にし、本学に貢献できるよう日々向上心を持って研究活動や教育に取り組む所存です。皆様のご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

略歴 二〇〇七年三月 立命館大学大学院理工学研究科総合理工学専攻博士課程後期課程修了 博士（工学）。二〇〇七年四月 立命館大学理工学部 研究生・非常勤講師。二〇〇八年四月 フランス国立科学研究センター 博士研究員。二〇〇九年十月 九州大学先端物質化学研究所 特任助教。二〇一三年四月 立命館大学生命科学部応用化学学科 助教。

小島 寿夫 先生
こじま ひさお



本年四月より生命情報学科に助教として着任いたしました。専門は、セラミド型脂質（特にスフィンゴ糖脂質）の構造解析を軸とした脂質生化学ですが、本学への着任

を機に糖鎖生物学およびオミクス研究の立ち上げを考えています。

教育・研究を通じて生命情報学科および生命科学部に貢献できるよう努めてまいりたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

略歴 二〇一一年三月 立命館大学大学院理工学研究科博士後期課程修了（博士（理学））。二〇一一年四月～二〇一三年三月 東海大学糖鎖科学研究所特定研究員。二〇一三年四月 立命館大学生命科学部 助教。

下畑 宣行 先生
しもはた のぶゆき



本年四月より、生命科学部生命医科学科に助教として着任いたしました。現在は、プロテオミクス解析によるリポソーム機能の解明をテーマとして研究を行っております。大学だけでなく、企業での研究経験もありますので、それらを基にして本学の教

育・研究にお役に立てるよう精一杯努力する所存です。皆様のご指導・ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

略歴 二〇〇五年 京都大学大学院理学研究科博士課程修了 博士（理学） 二〇〇五年 大阪市立大学大学院医学研究科 博士研究員 二〇〇七年 株式会社ネクスト21 研究員 二〇一二年 東京大学大学院工学系研究科 特任助教 二〇一三年 本学着任。

高橋 文雄 先生
たかはし ふみお



今年度から生物工学科の助教として着任した高橋文雄です。学生時代から植物、特に藻類の光環境と光感受の研究をしてきました。滋賀は琵琶湖がありますので、湖の藻類など採集し新たな研究がはじめられれば良いかなと思っております。実験室内とフィールドを融合した研究を学生とともに行っていきたいと考えております。

略歴 東北大学農学研究科博士課程
修了(二〇〇〇)
理化学研究所(二〇〇〇―二〇〇二)
東京都立大学(二〇〇二―二〇〇五)
東京大学(二〇〇五―二〇〇六)
東北大学(二〇〇六―二〇一〇)で
ポストドク
科学技術振興機構さがけ専任研究
員(二〇一〇―現在兼任)

ながい
永井 哲郎 先生
てつろう



本年の四月に生命科学部助教として着任
いたしました。分子動力学シミュレーショ
ンを用いた生体分子の解析を専門分野にし
ています。また、分子動力学シミュレーショ
ンで用いられる強力な拡張アンサンブル法
に関する手法開発も行っており参りました。
至らぬ点もあるかと存じますが、ご指
導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願
いします。

略歴 二〇〇八年三月名古屋大学理
学部物理学卒業

二〇一三年三月名古屋大学大学院理
学研究科物質理学専攻博士後期課程
修了、博士(理学)
二〇一三年四月より立命館大学生命
科学部助教

ふじもと かずし
藤本 和士 先生



本年四月より薬学部助教として着任しま
した。分子動力学計算と呼ばれるシミュ
レーション手法を用いて、生体関連分子の
構造・物性の研究を行っております。
本学におきまして、研究・教育に全力で
取り組む所存ですので、皆様のご指導、ご
鞭撻の程、よろしくお願いいたします。

略歴 二〇一二年三月 名古屋大学
大学院工学研究科博士後期過程終了
博士(工学)。同年名古屋大学大
学院工学研究科 研究員。二〇一三
年四月 本学薬学部に着任。

ただ
竹田 有加里 先生
ゆかり



本年四月より生命科学部生命情報学科に
特任助教として就任致しました。専門分野
は電気生理学です。これまでの実験研究や
シミュレーション研究の経験を活かし、生
体機能の総合的な解明ばかりではなく、真
に医療向上へと繋がる生命情報学的研究を
積み重ねていきたいと考えております。教
育にも力を注ぐ所存ですので、ご指導・ご
鞭撻のほど、宜しくお願い致します。

略歴 二〇〇七年十二月 ネバダ州
立大学大学院医学研究科、生理学・
細胞生物学専攻 博士課程修了、博
士(理学) 二〇〇七年九月 ワシン
トン州立大学シアトル校・生理生物
物理学部ポストドク研究員
二〇一〇年三月 京都大学・医学部
糖尿病栄養内科 特定助教
二〇一二年四月 立命館大学・R-
GIROポストドクトラルフェロー
二〇一三年四月 立命館大学・生命
科学部生命情報学科特任助教。

さいき やすひこ
才木 康彦 先生



本年四月より、薬学部助手として着任
させていただきました才木康彦です。私
はこれまで、病院臨床検査室において種々
の生体物質の血中濃度を測定し、その臨
床的意義について検討してまいりました。
Immunoassayの知識と経験を生かして、
微力ながら本学薬学部臨床薬理学研究室
の研究に貢献し、各種疾患の病態解析・
薬物治療における臨床検査の意義につい
て学生さんに少しでも伝えられたらと考
えております。どうかよろしくお願ひ申
し上げます。

略歴 一九七三年 三月 名古屋衛
生技術短期大学衛生技術学科 卒業
一九七三年 四月(株)神戸製鋼所
神鋼病院入社
一九八一年 四月 神戸市立医療セ
ンター中央市民病院 臨床検査技術
部 勤務
二〇一二年 四月 兵庫県立尼崎病
院 中央検査室 勤務
二〇一三年 四月 本学薬学部 着
任

物故者

平成24年9月1日から平成25年8月31日の間に、ご逝去の連絡を頂いた方々です。
心よりご冥福をお祈り申し上げます。

河合 健 (平13年卒) (敬称略)	安福 義雄 (昭47年卒)	溝畑 行雄 (昭38年卒)	草深 良夫 (昭36年卒)	上原 正巳 (昭34年卒)	上島 喜信 (昭33年卒)	森 俊雄 (昭32年卒)	東浦 孝守 (昭32年卒)	佐々木右八 (昭32年卒)	岩崎昭一郎 (昭32年卒)	宮川金二郎 (昭31年卒)	和田 準二 (昭31年卒)	原田 治 (昭30年卒)	藤原 秀夫 (昭27年卒)	岡田 敏夫 (昭27年卒)	高澤 久 (昭27年卒)	岩崎 弘通 (昭27年卒)	渡辺 邦夫 (昭26年卒)	松村雄二郎 (昭26年卒)	山内 貞一 (昭26年卒)	兵頭 武郎 (昭25年卒)	横田 正博 (昭24年卒)	山田 晃 (昭23年卒)	本村 一雄 (昭22年卒)	村井嘉瑞雄 (昭22年卒)	後藤 多市 (昭22年卒)	阿部 輝雄 (昭19年卒)	小西 進 (昭18年卒)
--------------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	-----------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	-----------------	------------------	------------------	-----------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	-----------------	------------------	------------------	------------------	------------------	-----------------

立命化友会役員異動 (敬称略)

逝去

名誉会員 岩崎 弘通 (昭24年)
常任幹事 上原 正巳 (昭34年)

変更

常任幹事 西原駿一郎 (昭41年)

学内幹事

新任

田中 秀和 (平25年着任)
桂 敏也 (平25年着任)
竹田 篤史 (平25年着任)
川村 晃久 (平25年着任)

年度幹事

退任

廣瀬榮三郎 (昭32年)
佐々木 豊 (昭36年)
西原駿一郎 (昭41年)
西村 定 (昭41年)

新任

事務局だより

立命化友会は今年で二年目となりますが、その源流となる化学科同窓会は一九八三年に設立され、三十年目を迎えました。これを記念して、設立三十周年事業の開催を来年七月に予定しております。内容につきましては現在検討中ですので詳細が決まり次第別途みなさまにご案内をさせていただきます。

クラス会案内

元立木研究室 (元生物化学研、元生物化学Ⅱ研、元応用微生物学研) 同窓会のご案内

【日時】

二〇一四年二月二十二日 (土)
十七時～十九時

【開催予定場所】

立命館大学朱雀キャンパス七F
Tawawa 二条店

京都市中京区西ノ京朱雀町一番地

【幹事】

目片 秀明

(TEL 〇七四二一四五一〇六〇二)

E-mail: mekata@kcn.ne.jp)

普段、お会いできない先生に会えるチャンスです。

奮ってのご参加をお待ちしております！
詳しくは幹事まで。

※クラス会 (卒研・同期会) について、前もって行事を立てられている方は案内文を立命化友会ニュースへ掲載いたしますので事務局までご連絡ください。

編集後記

二〇〇八年度に生命科学部と薬学部が発足し、二〇一四年三月に薬学部から一期生が卒業いたします。この間に生命科学部同窓会の名称が「立命化友会」と決定されそして来年同窓会設立三十周年事業に向かって取り組んでまいります。

国内では山中伸弥氏がiPS細胞でノーベル医学生理学賞を受賞されました。衆議院選で自民が圧勝し、アベノミクスを打ち出しました。この六月には富士山と三保の松原を含め世界文化遺産に登録され、加えて二〇二〇年東京オリンピックが決定しました。各会員の皆様、同好会行事へ積極的に参加頂き、お互いに情報交換等のコミュニケーションを計り活発な同窓会活動の展開を願います。
(金川)

立命化友会 2012 年度事業報告

I. 諸事業

1) 2012 年 3 月卒業生名簿作成	2012 年	5 月
2) 在校生ソフトボール大会	2012 年	11 月
3) 立命化友会ニュース(第 1 号)発行	2012 年	11 月 1 日
4) 全会員への通信	2012 年	11 月
5) ゴルフ懇親会		
・第 29 回	2012 年	10 月 25 日
・第 30 回	2012 年	3 月 30 日
6) 卒業・修了パーティー	2013 年	3 月 20 日
7) 立命化友会ハイキング		
・第 24 回	2012 年	4 月 29 日
・第 25 回	2012 年	11 月 25 日
8) 釣り天狗クラブ		
・第 3 回	2012 年	5 月 19 日
9) 温泉研究会		
・臨時幹事会	2012 年	6 月 11 日
10) 特別企画セミナー		
・第 1 回	2013 年	2 月 24 日

II. 諸会議

1) 幹事会		
・第 1 回	2012 年	6 月 17 日
・第 2 回	2013 年	2 月 24 日
2) 企画運営委員会	2013 年	2 月 24 日
3) 立命化友会ニュース編集委員会		
・第 1 回	2012 年	7 月 1 日
・第 2 回	2012 年	9 月 15 日

III. 支部活動

(関東支部、東海支部、中国・四国支部) なし

2012 年度立命化友会決算

(単位:円)		
一般会計		
〈収入の部〉	予算額	執行額
前年度繰越金	911,882	911,882
応化会 2011 年度繰越金	2,409,308	2,409,308
会 費 (学生)	3,000,000	2,880,000
寄 付 金	10,000	295,120
雑 収 入	1,000	267
合 計	6,332,190	6,496,577 ①
〈支出の部〉	予算額	執行額
事業等補助金	300,000	214,550
地域別活動推進費	250,000	0
会 議 費	150,000	69,133
印 刷 費	600,000	593,135
郵 送 費	700,000	625,679
人 件 費	1,000,000	850,438
事務局費	250,000	75,281
雑 費	50,000	0
拠出金 (連絡協議会へ)	150,000	140,000
在学生活動援助費	300,000	300,000
振込み手数料	10,000	3,255
予 備 費	2,572,190	0
合 計	6,332,190	2,871,471 ②
次年度繰越金 (①-②)		3,625,106
応化会基金 (仮称)		
〈収入の部〉	予算額	執行額
繰 越 金	4,294,169	4,294,169
合 計	4,294,169	4,294,169
次年度繰越金		4,294,169

立命化友会 2013 年度事業計画

I. 諸事業

1) 2013 年 3 月卒業生名簿作成	2013 年	6 月
2) 在校生ソフトボール大会	未定	
3) 立命化友会ニュース(第 2 号)発行	2013 年	11 月 1 日
4) 全会員への通信	2013 年	11 月
5) ゴルフ懇親会		
・第 31 回	2013 年	10 月 24 日
・第 32 回	未定	
6) 卒業・修了パーティー	2014 年	3 月 22 日
7) 立命化友会ハイキング		
・第 26 回	2013 年	4 月 21 日
・第 27 回	2013 年	11 月 24 日
8) 釣り天狗クラブ		
・第 4 回	2013 年	9 月 22 日
9) 温泉研究会		
・第 5 回幹事会	2013 年	7 月 8 日
・第 3 回総会	2013 年	11 月 11 日
10) 特別企画セミナー		
・第 2 回	2014 年	2 月 23 日

II. 諸会議

1) 幹事会		
・第 1 回	2013 年	6 月 30 日
・第 2 回	2014 年	2 月 23 日
2) 企画運営委員会	2014 年	2 月 23 日
3) 立命化友会ニュース編集委員会		
・第 1 回	2013 年	6 月 15 日
・第 2 回	2013 年	9 月 15 日
4) 同窓会設立 30 周年事業準備委員会		
・第 1 回	2013 年	6 月 30 日
・第 2 回	2013 年	9 月 28 日

III. 支部活動

(関東支部、東海支部、中国・四国支部) 未定

2013 年度立命化友会予算

(単位:円)	
一般会計	
〈収入の部〉	予算額
前年度繰越金	3,625,106
会 費 (学生)	3,690,000
寄 付 金	10,000
雑 収 入	1,000
合 計	7,326,106
〈支出の部〉	予算額
同窓会 30 周年事業準備費	50,000
事業等補助金	300,000
地域別活動推進費	250,000
会 議 費	150,000
印 刷 費	800,000
郵 送 費	1,000,000
人 件 費	1,000,000
事務局費	250,000
雑 費	50,000
拠出金 (連絡協議会へ)	180,000
在学生活動援助費	360,000
振込み手数料	10,000
予 備 費	2,926,106
合 計	7,326,106
応化会基金 (仮称)	
繰 越 金	4,294,169
合 計	4,294,169